

## 猫とガムテープ



わが家の牝猫アンに湿疹が出来て半年ほどになる。最初は左目の上の肌がピンク色になった。やがてそれを爪で掻いて血が滲んできた。捕まえて目に入らぬように赤チンを塗ってやったところ、一ときはそれは治ったかのように見えた。

このアンちゃんは、東京から鹿児島に引っ越して来る一週間ほど前に、雨上がりのお勝手口で拾ったものだった。最初鼠が死んでいるのかと思っただほどの小さかった。つまみ上げると目を開いた。すっかり濡れていてそのままでは死んでいたことだろう。近所の滅法動物好きの若い女の獣医さんに見せると大丈夫生きているから、引っ越しの忙しい間は預かってあげると云う。内心は嫁入り先を見つけて欲しかったのだが、結局私のズボンのポケットに収まっ

て、飛行機に乗って鹿児島まで来たのだった。

わが家にはすでに牝猫がいて、アンに子猫が生まれても面倒と、半年後に避妊手術を受けさせたのだが、その時の麻酔薬が原因だったのか癩癩を起すようになってしまった。夫が薬を毎朝飲ませているので、このところは治まっているが、その薬のせいか、いたずら者でじゃれ廻っていたのが、一日じつとベッドの上につづくまっっている。抱いて手足を動かしてもされるままになっているので、「ぬいぐるみのアンちゃん」と呼んでいる。

ずっと薬を続けるのも不経済だし、獣医さんも少しずつ間隔を延ばすように言われて、夫が薬を一日置きに与えるようにしている。薬は頭のどこかの活動を麻痺させてしまつのか、部屋の隅で排便や排尿をするようになってしまった。キャッツフードしか食べないせいかなり臭わないので、うっかり踏んでしまつたりして大騒ぎになる。叱れば小さくなっているが、一向に直らない。困つたものだが、原因は人間が勝手に受けさせた手術なのだから無下にも出来ないのである。

いつか湿疹が右頬に移っていた。それを右の後足でカツカツと搔くものだから傷になってしまった。薬を塗っても癒るより足の力の方が強い。爪を切っても効果はなく、血が滲んで布団のカバーを汚す始末である。ついに傷は長さ五センチ幅一センチほどにも大きくなってしまった。

そこで一計を案じた。ガムテープで右の後足をぐるぐる巻いて、爪が出ないようにしたのである。頬の傷にも薬を塗って同じくガムテープを貼った。アンは三本足で立って、巻かれた足をピピッと振って脱こうとするのだが、貼り付いている上のぐるぐる巻きのなだからピクともしない。後ろ足を振りながらのそのそ外へ出て行った。

これは大成功でみるみる傷は小さくなって来た。頬のガムテープは毎朝剥いで薬を塗って新たにまた貼っておく。足の方も破けていれば補強してやる。あと二三日で完治かとも思えた。

「アンちゃん、いい子ね。もうすぐ治るね」

とぬいぐるみのアンちゃんを膝に乗せて、薬を貼り替えてやったのだったが、やはり足のぐるぐる巻

きが我慢の限界にきていたらしい。歯でガムテープを噛んで穴をあけ、そこをくわえて上手に剥いでしまったのだ。夕食後夫が思い出したように

「ガムテープをくわえて剥いでいたよ」というので、ハツとして寝室に行つて見ると時すでに遅し。また深い搔き傷を作つて血を滲ませていた。

「まあ、なんてお馬鹿さんなんでしょう」

と言いながらも、見つけた時直ぐに知らせてくれればいいのにとちよっぴり夫が恨めしい。またやり直しである。しかし今度は傷も小さく、四五日前の状態に戻った。

「アンちゃん、今度こそ治りそつね」

しかしよく見るとまた以前の左目の上が赤くなっているのが見つけた。消毒液を塗りながら、やっぱり獣医さんに行くべきだろうかとほんやり考えている。